

公開実用 昭和55—167648

特許庁公報 第55号



実用新案登録願

昭和 54 年 5 月 21 日

特許庁長官 稲谷 勝二 殿

1. 考案の名称 トリヅ コウノク
バリコンの取付け構造

2. 考案者
フリガナ 佐野(居所)
サカノヒガサカド
埼玉県坂戸市東坂戸1丁目7番地602号
氏名 ナガスマケン
水沼 健 (他 名)

3. 実用新案登録出願人

住所 〒145 東京都大田区東雪谷二丁目1番17号
電話 (727) 1161

名称 (308) 東光株式会社
代表者 トヨタマコト
通田 寛 (他 名)

4. 添付書類の目録

- | | |
|----------|-----|
| (1) 説明書 | 1 通 |
| (2) 図面 | 1 通 |
| (3) 願書副本 | 1 通 |
| (4) () | 1 通 |

明細書

1. 考案の名称

バリコンの取付け構造

2. 實用新案登録請求の範囲

合成樹脂から成るバリコンのカバーに、複数の係止片を一体に成形して設けたことを特徴とする
バリコンの取付け構造。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、小形バリコンのプリント基板への取付け構造に関し、製造の容易なバリコンの取付け構造を提供しようとするものである。

従来は、小形バリコンをプリント基板に仮止めするのに、バリコン本体から引き出した金属のアース板をくの字形に成形して、これをプリント基板に係合せるようにしていた。しかしながら、固いアース板を彎曲する作業は手数がかかり、高価となる欠点があつた。本考案はこのような従来の欠点を解消しようとするものである。以下、その一実施例につき、図面とともに説明する。

第1図及び第2図において、1はローテ板2を

固着したロータ軸であり、ロータ軸1は前面基板3と後面板4に挿持されて回動自在となるよう取付けてある。5は支柱6に固定したステータ板で、6はステータ板5に接続して導出した端子である。7はバリコン本体を被り合成樹脂から成るカバーで、7aはカバーフレームに一体に形成した鉤状の保止片である。8はバリコンが取付けられるプリント基板であり、プリント基板8における8a・8b・8cは、それぞれ、ロータ軸1・保止片7a・端子6aを押通するための孔である。

合成樹脂から成る二つの保止片7aは可撓性を有しており、保止片7aの先端を孔8bに差し込んだとき、保止片7aは、孔8bの周辺に鉤部が当接して一旦たわみを生じて変形する。そして、さらに孔8bの奥まで差し込み、鉤部が孔8bを貫通すると、保止片7aは、それ自身の弾性によつて元の形状に戻り、第3図に示すようにプリント基板8と保合する。このようにして、二つの保止片7aによりバリコンをプリント基板8に仮止めした後、端子6aをプリント基板8に半田付けすることによつ

て、パリコンの配線接続及び固定がなされる。

なお、保止片7は、プリント基板8に対して保合するように突起を有するものであればよく、その形状及び個数は任意のものを適宜選択し得る。

上記の実施例から明らかかなように、本考案によるパリコンの取付け構造は、パリコン本体を被り合成樹脂から成るカバーに複数の保止片を設け、パリコンをプリント基板に半田付け固定するまでの仮止めを、これらの保止片によつて行なうようにしたものである。

本考案によれば、合成樹脂のカバーを成形するだけで容易に取付けの確実なパリコンが得られる。また、どのようなタイプの小形パリコンも、本考案によるカバーに交換するだけで、簡単にいわゆる自立型に変えられるという実用的な効果を有するものである。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案による取付け構造を具えたパリコンの斜視図、第2図は同パリコン及びプリント基板の一部断面正面図、第3図は同パリコン裏部

公開実用 昭和55-167648

の断面正面図である。

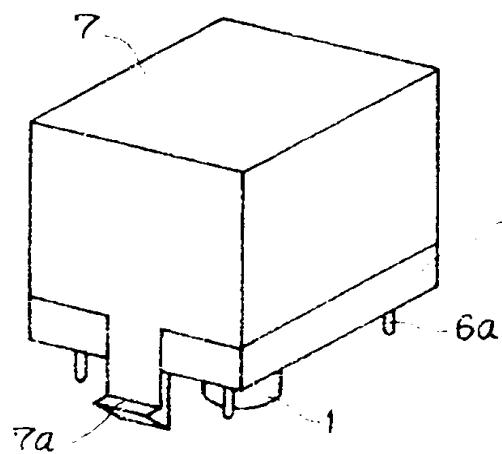
7 ……カバー， 7a ……係止片，

8 ……プリント基板， 8b ……孔

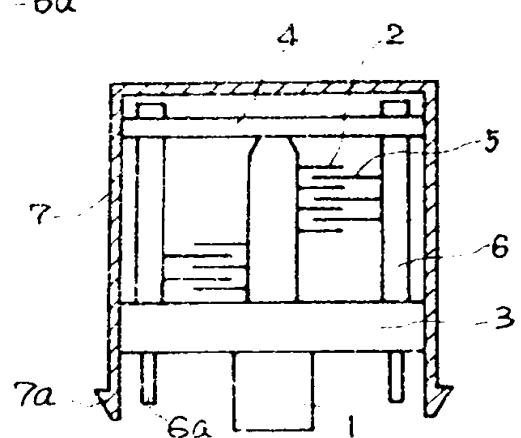
実用新案登録出願人

東光株式会社

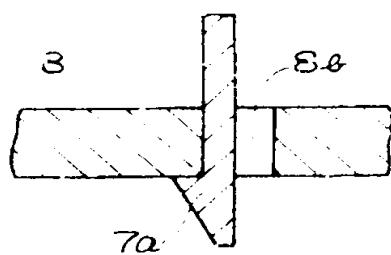
第 1 図



第 2 図



第 3 図



実用新案登録出願人

東光株式会社